

研究主題 小・中学校における読解力の向上を図るための研究 各教科等の指導を通して

研究の背景とねらい

現状と課題

- 児童・生徒の読解力の現状
- ・ OECD 生徒の学習到達度調査 (PISA2003)
 - ・ 国際数学・理科教育動向調査 (TIMSS 2003)

課題 読解力

- ・ テキストの解釈、熟考・評価に課題がある。
- ・ 自由記述(論述)の設問に課題がある。
- 数学的リテラシー、算数・数学
 - ・ 解釈を要する設問、自由記述形式の設問に課題がある。
- 科学的リテラシー、理科
 - ・ 科学的な解釈や論述形式の設問に課題がある。

- ・ 平成 15 年度小・中学校教育課程実施状況調査 (国立教育政策研究所)
- ・ 児童・生徒の学力向上を図るための調査 (資料 1・資料 4 参照) (東京都教育委員会)

課題

文章・資料などを読む力、資料から読み取った事実を基に考える力、類推する力、読み取ったものを表現する力等に課題がある。

- ・ 特定の課題に関する調査 (国語、算数・数学) (平成 18 年 7 月 国立教育政策研究所)

関連施策等

- ・ 新しい時代における教養教育の在り方について (平成 14 年 2 月 中央教育審議会答申)
- ・ これからの時代に求められる国語力について (平成 16 年 2 月 文化審議会答申)

- ・ 国語力の構成要素を「考える力」、「感じる力」、「想像する力」、「表す力」としている。

- ・ 国語力向上モデル事業 (資料 2 参照) (平成 15 年度～平成 18 年度 文部科学省)
- ・ 読解力向上プログラム (平成 17 年 12 月 文部科学省)

- ・ 読解力向上のための取組は各教科、総合的な学習の時間等を通じて、行う必要がある。

- ・ 読解力向上に関する指導資料 - PISA 調査 (読解力) の結果分析と改善の方向 - (資料 3 参照) (平成 17 年 12 月 文部科学省)

- ・ 東京都教育委員会の教育目標及び基本方針 2
- ・ 東京都教育ビジョン提言 9 (平成 16 年 4 月 東京都教育委員会)
- ・ 読解力向上のための図書館活用ガイドブック (平成 19 年 1 月 東京都教育委員会)

資料 1 調査報告書

小 5 算数	全都平均正答率
関心・意欲・態度	85.5%
数学的な考え方	47.7%
表現処理	83.5%
知識・理解	72.1%

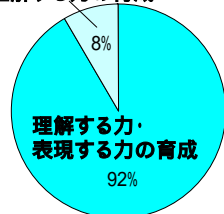
中 2 英語	全都平均正答率
関心・意欲・態度	89.0%
表現の能力	64.2%
理解の能力	64.3%
知識・理解	79.4%

観点ごとの結果から、読解力に関わる「思考・判断」「表現」等に課題があることが読み取れる。 (平成 17 年度)

資料 2 推進校の研究

国語力を育てる取組

理解する力の育成



国語力を育てる活動として、理解する力・表現する力を共に高めようとする推進校が多い。

(平成 15～18 年度 都内公立学校国語力向上モデル事業推進校研究紀要より)

資料 3 PISA 調査 (読解力) の結果を踏まえた指導の改善

- ・ PISA 調査のねらいとするところは、現行学習指導要領で子どもに身に付けさせたいと考えている資質・能力と相通じるものであることから、学習指導要領のねらいとするところの徹底が重要である。

- ・ 読解力は、国語だけではなく、各教科、総合的な学習の時間など学校の教育活動全体で身に付けていくべきものであり、教科等の枠を超えた共通理解と取組の推進が重要である。

参考 学校生活全体を通して、言語に対する関心や理解を深め、言語環境を整え、児童 (生徒) の言語活動が適正に行われるようにすること。 (小・中学校学習指導要領の総則)

読解力はすべての教育活動の中で育てる

研究のねらい

児童・生徒の読解力にかかわる現状等から、小・中学校において、児童・生徒の読解力を各教科等の指導を通して高める必要があると考え、本研究では各教科等における児童・生徒の読解力を向上させるための指導資料の開発を行う。

研究の成果

読解力の定義を分析し、読解力の構成要素を「取り出す」「まとめる」「創り出す」として、内容を明らかにしたこと。 [26 ページ]

読解力の向上を図るための指導の工夫と具体的な指導の手だてを例示したこと。 [27 ページ]

小・中学校における児童・生徒の発達段階に応じた指導事例を示したこと。 [28・29・30 ページ]

これらの研究の成果は、東京都教職員研修センターのホームページにも掲載する。

<http://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.jp>

読解力について

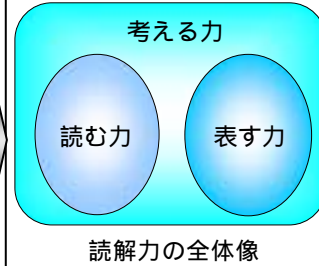
PISA 型読解力とは

自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力

文部科学省における読解力

読解力向上プログラムでは、PISA型読解力に基づき、文章・資料を基に読む力（聞く力）と書く力（話す力）を高め、実生活・行動に役立つ力を育てることが大切であると示し、「考える力」を中核として、「読む力」「書く力」を総合的に高めていくことが重要としている。

本研究における読解力について



読解力向上プログラム及び文化審議会答申を踏まえ、本研究における読解力は「考える力」を中核とした「読む力」と「表す力」ととらえ、読解力の構成要素を以下のように考えた。

読解力の構成要素

読解力の構成要素を「●取り出す ●まとめる ●創り出す」とした。

これらの構成要素の役割を以下のように考えた。

●取り出す

文章や資料等の内容を正しくとらえる

- ・自ら学ぼうとする姿勢が大切
- ・肯定的に取り出すことが必要

●まとめる

上記でとらえた内容を解釈する

- ・様々な情報を比較し推論していきながら、取り出したことをまとめることが大切
- ・内容や筆者の意図などを解釈することが必要

●創り出す

解釈した内容を自分の経験や知識に結び付けて、理解・評価する

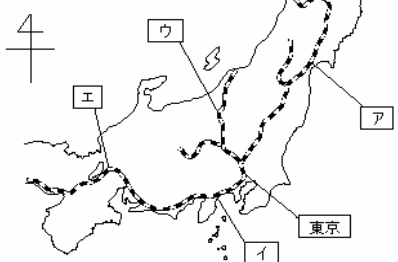
- ・「取り出す」「まとめる」過程を経て、自分の知識や経験という、新たな情報との関連の上で、創造していくことが大切
- ・内容、形式や表現、信頼性や客観性、引用や数値の正確性、論理的な思考の確かさなどを理解・評価したり、自分の知識や経験と関連付けて建設的に批判したりすることが必要

次の問題を参考にして、読解力の構成要素に基づき指導の工夫を行うと次のような「発問の工夫」ができる。

資料4 調査問題（小学校・第5学年）

けいこさんは、東京駅から京都駅へ向かうとちゅうです。新幹線が進む方向を向いてすわっているけいこさんには、左側のまどから海が見えています。けいこさんが乗った新幹線は、次の図の**ア**、**イ**、**ウ**、**エ**のどのあたりを走っているのですか。

<新幹線の線路の図>



平成18年度 問題解決能力等調査（適用・応用する力）

●取り出す

T：問題文や線路の図から問題を解くために必要なことを正しく取り出しましょう。

C：けいこさんは、東京駅から京都駅へ向かうとちゅうです。

C：左側の窓から海が見えています。

C：この図には、線路、東京の位置、東西南北が示されています。

●まとめる

T：取り出した内容を整理すると、どのようなことが分かりますか。

C：問題文から、けいこさんは東京駅から出発していることが分かります。地図では、海の近くを走っているのは「ア」と「イ」なので、左側に海が見えるのは「イ」だと思います。

●創り出す

T：答えが「イ」になるわけを他の資料なども使って詳しく説明してください。

C：けいこさんが向かったのは京都駅です。京都駅は（地図帳を使って）ここにあります。だから、東京から京都駅へ向かう新幹線は、「エ」の方向に向かっていきます。「エ」では、海が見えないので、けいこさんが乗った新幹線は、「イ」のあたりを走っていることが分かります。

読解力の向上を図るための指導の工夫

本研究では、教科の内容と読解力を関連付け、以下のような活動を中心に指導の工夫を行った。

指導の工夫 読む活動

文章・資料を理解・評価しながら読む活動を取り入れる

指導事例 小・算数 中・国語 28 ページ

指導の工夫 表す活動

文章・資料に基づいて自分の考えを表す活動を取り入れる

指導事例 小・国語 小・理科 29 ページ

指導の工夫 機会の充実

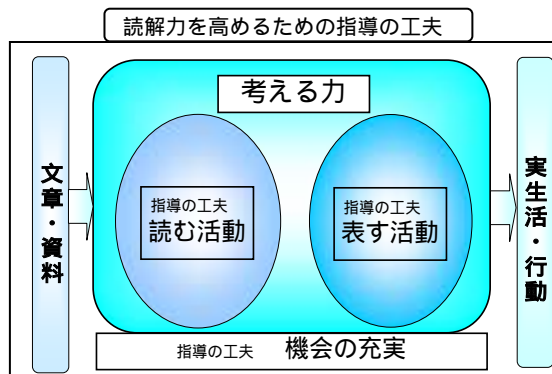
様々な情報を活用することで、読む活動・表す活動を充実させる

指導事例 中・国語、総合的な学習の時間 30 ページ

読解力の向上を図るための指導の工夫

指導の工夫 に合わせて読解力の構成要素から見た目指す児童・生徒の姿を示し、具体的な手だての例を考えた。児童・生徒の実態に合わせて、指導の工夫を選択し、各教科等で具体的な手だてを基に指導する。このことにより、読解力が身に付いた児童・生徒の様子を明確にとらえることができ、読解力の評価に生かすことができる。

以下の表を基に、各学校・学級では児童・生徒の実態等に応じて具体的な手だてを設定する必要がある。



読解力の指導の工夫と具体的な指導の手だて(例)

指導の工夫	読解力の構成要素	目指す児童・生徒の姿	具体的な手だて	指導事例
指導の工夫 読む活動 文章・資料を理解・評価しながら読む活動を取り入れる	● 取り出す	文章・資料の内容を正確に読み取ることができる。	順序を表す言葉や文末の表現、段落の構成など文章を読み取るために必要な事項に着目したり、見付けたりするように指導する。 式・地図などから必要な情報を取り出すために記号の読み方等を指導する。	中・国語 28ページ 28ページ
	● まとめる	読み取ったことの原因や根拠を、文章・資料の中から探すことができる。	何のために、何を読み取るかを明確に示した上で、必要な箇所にラインを引かせるなど原因や根拠を探す方法等を指導する。 違うところ、似ているところなど、観点を明確にして表やグラフなどの資料を比較し、自分の考えをもたせる。	
	● 創り出す	読み取ったことについて、自分の知識や経験を踏まえて評価・判断することができる。	児童・生徒自身の知識や経験と比較しながら文章・資料を読ませる。 自分の考えを明確にするために、複数の文章・表・グラフなどを比較・評価させる。	
指導の工夫 表す活動 文章・資料に基づいて自分の考えを表す活動を取り入れる	● 取り出す	読み取った内容を正しく表現することができる。	疑問に思ったことや、最も重要だと思われる部分などを書き出させる。 表すために必要な声の大きさや書き方の約束などを指導する。	小・理科 29ページ 29ページ
	● まとめる	読み取った内容を基に自分の言葉で表現することができる。	読み取った内容を、「差異」「優劣」「軽重」などの視点で分類・整理したことを発表させる。 読み取った内容で似ているものや違うものなどを関連付けて、表現させる。	
	● 創り出す	今までの経験などと結び付けて自分の考えを表現することができる。	読み取ってまとめた情報と知識や経験などを結び付け、新しい解決策を自分の言葉や方法等で発表させる。 まとめた情報を今までの経験や意見などを基に、相手に分かりやすく工夫して表現させる。	

指導の工夫	具体的な手だて	指導事例
指導の工夫 機会の充実 様々な情報を活用することで、読む活動・表す活動を充実させる	学習課題を明確にして、様々な文章や資料などを読ませ、その特質が分かるようにする。 同じ作者の他の作品や同じシリーズの本などを読む機会を設ける。 論理性の高い文章や優れた表現などに触れる機会を設ける。 学習活動の中で自分の意見を述べたり書いたり友達の意見を聞いたり、読んだりする機会を充実させる。 目的や条件などを明確にして、自分の考えを述べたり書いたりする機会を設ける。 論理的・説明的な文章に対する自分の意見を述べたり書いたりする機会を意図的につくる。	中・国語 30ページ 中・総合的な学習の時間 30ページ

指導の工夫 読む活動

小学校・第3学年 算数

単元名
「表と棒グラフ」(10時間)
単元の目標
資料を分類整理して表や棒グラフに表したり、それらを読んだりすることができる。

単元計画
1 資料を分類整理する方法や整理した結果を表にまとめる方法を知る。(2時間)
2 棒グラフの読み方や棒グラフに表す方法を理解し、棒グラフを読んだりかいたりする。(5時間)
3 簡単な二次元の表を読み、その表現方法を工夫する。(3時間)

本時(第9・10時)の展開
ねらい 二次元の表から学級・学年・好きな外遊びの特徴を読み取る。
評価規準 表から様々な特徴を読み取り、それに合わせた表現方法を考える。

● まとめる

資料からまとめる観点を明らかにして、自分の考えをもつ。

学習活動		指導上の留意点	
1 課題を把握する。 好きな外遊び調べの表から何が分かるだろうか		・1組・2組の集計を二次元の表にまとめて提示する。好きな外遊び調べ (人)	
2 見通しをもつ。 T: どうすれば表から新しい発見ができるでしょうか。 C: それぞれの学級の数字が一番多いものを探す。 C: 1組と2組で違うところや同じところを探す。	発問の意図 ・まとめる観点を与えるのではなく考えさせる。 ・その観点が効果的であるかを判断させる。	好きな外遊び	合計
3 自力解決する。 T: 自分や友達が解決するために考えた方法を基に、表から発見したことをノートに書きましょう。発見できたわけを書きましょう。(以下略)		サッカー	合計
		ドッジボール	合計
		なわとび	合計
		野球	合計
		一輪車	合計
		合計	合計
		1組	33
		2組	34
		合計	67

・情報のまとめ方を児童から出させ、出ないものについては提示する。

中学校・第2学年 国語

単元名「生き方について考えよう」
(走れメロス)(5時間)
単元の目標
登場人物の生き方や考え方などを比較し、主題について自分の考えをもつことができる。

単元計画
1 物語のあらすじを理解し、登場人物についての感想をもつ。(1時間)
2 物語全体の背景や設定について理解する。(1時間)
3 登場人物の心情を読み取り、主題について考える。(2時間)
4 主題について友達と話し合い、自分の考えを書く。(1時間)

本時(第4時)の展開
ねらい 登場人物の心情の変化を読み取り、主題について考える。
評価規準 根拠を文章の中や自分の経験などから明らかにし、自分の考えをもっている。

● まとめる ● 創り出す

登場人物の生き方や考え方を基に、自分の経験と照らし合わせることで主題について考える。

学習活動		指導上の留意点	
1 課題を把握する。 メロスを再び走らせたもの、王を改心させたものについて考えよう		・メロス、王、それぞれに関する叙述を違う色の板書カードに書き、比較して、2人の共通点に気付かせる。	
2 メロスが再び王のもとへ向かうために走り出す場面を読んで、メロスの心情を読み取る。		・「心の弱さ」という言葉をヒントに、メロスや王が見失ってしまったもの、「心の弱さ」を克服することで得られたものを考えさせる。	
3 メロスを再び走らせた「水の音」について考える。		・主題を考えるための視点をもちたせるとき、常に文章に基づいているかを確認させる。	
4 王の心の変化を読み取る。			
5 メロスと王の心情の変化から、主題を考える。 T: メロスと王の心情を学習してきました。この作品で作者が伝えたかったことは何でしょうか。	発問の意図 ・実生活を振り返らせるために、自分の知識や経験と関連付けて、主題について自分の考えをもたせる。		
6 自分がこの作品から学んだこと、感じたことを短い文章にまとめる。 T: この作品からあなたは何を学びましたか。			

指導の工夫 表す活動

小学校・第5学年 国語

単元名「目的に応じた伝え方を考えよう」(9時間)
単元の目標
情報を伝えるためには何が大切であるかを考え、取材した話題を効果的に伝えることができる。

単元計画

- 1 教材文を読み、ニュース番組を作る過程や情報を伝えるために大切なことを理解する。(2時間)
- 2 取材した内容を基に、ニュース番組を作る。(7時間)

本時(第7時)の展開

ねらい 大切なことは何かを考えてニュース原稿を読み、伝えたいことの中心が効果的に表されているかを確認するとともに、必要に応じて原稿の修正をする。
評価規準 効果的に伝えるための構成・記述について自分の考えを明確に表している。

●まとめる ●創り出す

情報を伝えるときに大切なことは何かを考え、その根拠を明確にする。また、交流した内容について評価・判断して表す。

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 課題を把握する。</p> <p>ニュース原稿を読み合い、交流を基に修正をしよう</p> <p>2 グループ同士で原稿を読み合い、意見を交わす。</p> <p>T: 他<small>の</small>グループの発表を聞いて、根拠をはっきりと伝えながら意見交換をしよう。 まとめる</p> <p>C: この情報は伝えたいこととは関係がないと思うので除いた方がよいと思う。</p> <p>C: この原稿は、最初に話題を伝えているのでどんなニュースなのか、すぐに分かった。</p> <p>C: 三つの文に分けているので、読んでいて分かりやすい。</p> <p>3 交流で出された意見を基に、原稿を修正する。</p> <p>T: なるほどと思った意見を参考にしながら原稿を修正しよう。 創り出す</p>	<p>・情報伝えるために大切なことを掲示し、意識させる。(伝えたいことの中心を明確に表すなど)</p> <p>・取材カードを操作したり、原稿を音読したりしながら、構成や記述についての話し合いができるようにさせる。</p> <p>・根拠を述べるよう助言する。</p>

小学校・第5学年 理科

単元名「流れる水の働き」(11時間)
単元の目標
地面を流れる水や川の様子を観察し、時間や水量、自然災害などに目を向けながら調べ、問題を見付け計画的に追究する活動を通して、自然の力の大きさを感じ、流れる水の働きの規則性についての見方や考え方を養う。

単元計画

- 1 流れる水の働きにはどのようなものがあるかを予想し、観察や実験を通して、実験結果を基に流れる水の働きについて理解する。(6時間)
- 2 実験結果と実際の川の様子を関連付けて考え、土地の様子の変化をとらえる。(3時間)
- 3 既習事項を用いて、洪水を防ぐ方法を考え、「安心プラン」を作成する。(2時間)

本時(第6時)の展開

ねらい 実験結果を基にまとめを行い、流れる水の働きについて理解する。
評価規準 水量の変化によって、流れる水の働きが変化することを理解している。

●取り出す ●まとめる

実験結果(事実)を基に、分かったことを表現する。

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 課題を把握する。</p> <p>実験結果を基に、流れる水の働きについて明らかにしよう。</p> <p>2 予想と実験結果を発表する。</p> <p>T: 予想と実験結果をそれぞれ発表しましょう。 取り出す</p> <p>C: 水の流れが速いと外側がけずられた。</p> <p>3 比べるためには、条件をそろえることなど比べる観点を振り返り「まとめ」を書く。</p> <p>T: 黒板に掲示した「まとめの書き方」を参考に、分かったことや考えたことを書きましょう。 まとめる</p> <p>C: 川の外側の土が大きくけずられた結果から川の外側の流れが速いことが分かった。</p> <p>C: 川の内側は逆に土がたまっています。</p> <p>T: そのことからどのようなことが分かりますか。 まとめる</p> <p>4 グループで話し合い、流れる水の働きについて自分の考えをまとめる。</p>	<p>・まとめを書くときの文型を黒板に掲示する。 まとめの書き方例 ・～という結果から、～ということが分かった。 ・～という結果から、私は～だと考えた。</p> <p>・話し合いのポイントを提示する。 話し合いのポイント例 ・流れる水の速さや量について考えてみよう。 ・流れる水がどのような働きが強くなるのか。</p>



指導の工夫 機会の充実



東京都教育委員会
参考「読解力向上のための学校図書館ガイドブック」

中学校・第1学年 国語

単元名「古典との出会い」(11時間)
単元の目標
古典の文章に出会い、現代と比較することを通して、古典に見られるものの見方、考え方などについての理解を深める。

単元計画(全11時間)	
	学 習 活 動
1	「いろは歌」を音読みし、現代語訳と比べ、感想を交流する。(2時間)
2	「竹取物語」を読み、物語のおもしろさや現在の表現との違いを味わう。(5時間)
3	様々な昔話の絵本と原文を比較し、違いや発見等を発表し合い、古典への関心を深める。(2時間)
4	故事成語の成り立ちを理解し、現代でも活用していることを確認する。(2時間)

指導上の留意点 学校図書館の整備

今後、読解力向上に向けた各教科や総合的な学習の時間等における生徒の主体的・問題解決的な学習の実施にあたっては、学校図書館における「学習センター」や「情報センター」としての整備が必要。

「学習センター」的機能

- ・生徒の主体的・自発的な学習を支援する。
- ・生徒が創作活動や学習発表を行う。
- ・教員が研究・授業設計・教材作成を行う。

(参考)「読解力向上のための学校図書館ガイドブック」36ページ

単元構成の工夫
単元構成の工夫を行い、教科書教材に加えて昔話という複数の古典作品を読む機会を設定することで読む活動や表す活動が充実する。

中学校・第2学年 総合的な学習の時間

単元名「職場体験」
単元の目標
自らすすんで課題を設定し、様々な人とのかかわりや、職場体験学習の活動を通して、課題を追究するとともに、働くということに対する自らの考えを深めていくことができる。

単元計画	
過程	学 習 活 動
課題の設定	疑問から課題へ ガイダンス 課題設定のための問題意識づくり 課題の仮設定・課題の修正、個別面談 課題の設定
	職場体験学習 事前学習 職場体験学習先希望調査 職場の決定 インタビューのスキル獲得 職場調べ・しおり作り 職場別訪問準備・自己紹介カード作り 前日指導(全体、職場別)
課題の追究	職場体験学習 職場訪問 職場体験学習
	事後指導 礼状の作成 体験学習のまとめ
まとめ	学習のまとめと発展 学習成果のまとめ・発信 学習全体の振り返り 新たな課題の発見

指導上の留意点 保護者・地域等との連携から協働への工夫

<課題の設定>
1 解決案のアイデアを保護者、地域社会の人々、卒業生から聞き出す場の設定をする。
2 課題を設定したら、その妥当性を、保護者等にも問う。

<課題の追究>
1 生徒が体験場所を主体的に選択できるための情報を効果的に提供する。
例 (1) 職場ビデオの放映
(2) 保護者から「仕事」での工夫を聞き出す。(そのための保護者への事前依頼)
2 「仕事」の意義や生きる目的について理解させる。
(1) 卒業生を招き「仕事」や、そのために今何が必要であるかという話を聞かせる。
(2) 家庭科での指導内容にも触れながら、家庭での「仕事」にも着目させる。

<まとめ>
1 「職場体験」をより充実させるための工夫を行う。(職場へのアンケート調査)
2 生徒に来年度の学習の企画案を考えさせる。(生徒へのアンケート調査)
3 保護者に企画案を依頼する。(保護者へのアンケート調査)
ここで「アンケート調査」は、感想や反省だけのものではなく、よりよい企画を創り出すためのものである。

単元構成の工夫
各学習活動の中で、授業や体験活動を通して「働くこと」について考えたことを書いたり発表したりする時間を、意図的・計画的に設定することで、自分の考えが確かなものになる。
(参考)平成17年度東京都教育研究員研究報告書(中学校 総合的な学習の時間)